

発信年月日：平成 25 年(2013 年)6 月 18 日
所 属 名：甲賀農産普及課
番 号：C13003
部門分類：130 工芸・特用作物
発信者名：志和

遅れていた甲賀一番茶の収穫・製茶が終わる

本年一番茶の収穫は、平年に比べ 1 週間から 10 日遅延し、減収となった園が多かったため、生産者にとって大変厳しい年となりました。この原因は、昨年秋に気温が高温から低温へ急激に変化し、秋芽が生育途中で越冬状態となり、成熟が不十分であったことに加え、本年 1 月から 2 月の厳しい低温と寒風の影響で腋芽が不足したことが考えられます。さらに、4 月中下旬と 5 月上旬の降霜が被害を助長させ、一番茶の芽数が少なく芽伸びが緩慢となって、減収したと推察されます。

このような状況の中、昨年秋に整枝せず、本年春に整枝した園では低温の影響が小さかったように観察され、実際、生産者からもそういった声が聞かれました。これまで、秋整枝の方が春整枝よりも一番茶の収穫時期が早まり、販売単価も有利なことから、管内の茶園ではほとんどが秋整枝を実施していますが、リスク回避・分散の観点から春整枝を見直す必要があると考えます。

今後も地球温暖化に伴う気温の乱高下など茶の生育に大きな影響を及ぼす気象変動が予測されることから、本年の結果を十分に分析し、生産者や産地と協議し、春整枝への一定面積の変更や整枝方法の改善を検討していく予定です。

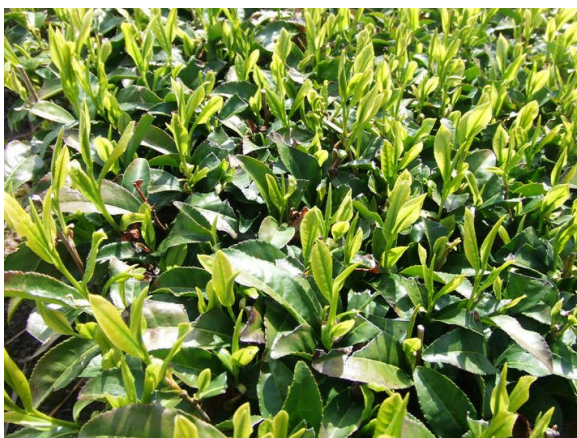


写真 1 2 葉期を迎えた一番茶
(平年に比べ芽数が不足)

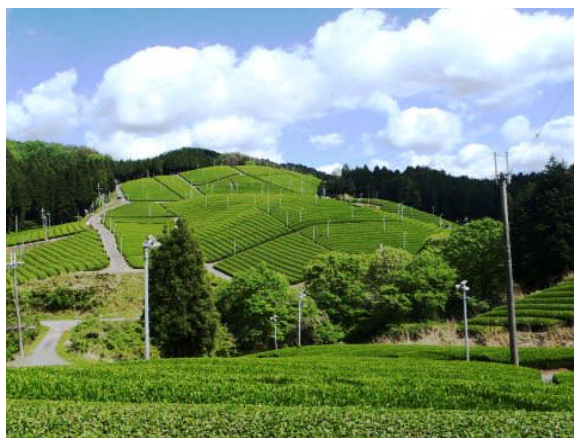


写真 2 収穫を終えた集団茶園
(平年では 5 月 25 日頃収穫
終了、本年は 6 月 5 日頃)